

令和6年度大津市青少年問題協議会 会議結果

1 開催日時

令和7年2月17日(月) 午後3時から午後4時30分まで

2 開催場所

大津市役所 新館特別会議室

3 出席者

委員9名

渡部委員、島崎委員、小谷委員、西田委員、秋野委員、福井委員、竹内委員、後藤委員、

内田委員 (秋永委員欠席)

事務局5名

子ども未来局長、子ども・若者政策課長、子ども・若者政策課長補佐、子ども・若者政策課主幹、

子ども・若者政策課青少年係員

4 傍聴者

なし

5 次第

別添次第のとおり

6 会議概要

開会

定刻どおり開会され、子ども未来局長から挨拶がなされた。

議題

大津市子ども・若者支援計画案について

事務局より説明

【質疑応答】

(委員)

子どものパブリックコメント結果に、怒られた時の親の行動についてのコメントがあります。匿名で回答されていると思いますが、支援機関としては、コメントをくれた人を特定して、安全を確認するとか、保護者を指導するということを考えないといけません。親が見ることも考え、この形で掲載するのが、いいのかどうなのかが気になりました。

(事務局)

こちらについては、我々も大変悩んだ意見であります。関係所属には、こういった意見があったことを共有しましたが、匿名でしたので、どこの方面の方なのかを含め、把握するのには難しいということでした。いただいた意見の中で、この意見だけを掲載しないという対応をとるのは、いろいろな思いを持ちながら市役所に意見を届けてくれたこどもの思いを考えると、そのままの掲載を考えました。とはいえ、これが世に出てしまうことの影響も含めてやはり適切ではないのではないかという意見があれば承りたいと思っています。

(会長)

先ほど委員が言っていたのは、出さない方がいいのではないかということですか。

(委員)

出さない方がいいのではないかと。これが出了場合の最悪の事態を想定して考えるいろいろなことが考えられます。最終的にこどもにボールが返っている形になっています。匿名で意見を募ったのがよかったですかどうかというところに行きついてくるのではないかという懸念があります。

(会長)

難しい。一方で、せっかく意見をいただいたのに答えていないという姿勢はどうか、というのも理解できます。こういうアンケートをとったときに、質問（回答）者が特定できないように、内容を少し変えて一般的な表現にして回答を出すことがあるかと思います。それでどの程度防げるかはわかりませんが、これを書いた子がなんらかの答えを期待して見ることもあるかもしれませんので、答えがないとないでまたということもあるかもしれません。

(委員)

匿名ですので、なんらかの答えを期待しているとも言い切れないと思いますが。

(委員)

どの資料が公表されますか。

(事務局)

公表するのは資料2と資料3になります。

(事務局)

例えば特徴的な文言が、家庭の中で特定されるような言葉である可能性も考えると、委員が言われるような2次被害、3次被害にあたる可能性も考えないといけないと思います。そこを配慮した方がいいように思いました。こどもが自分の意見を探してくれたときにわかつてもらえる範囲で、一般的な言葉に置き換えて回答した方がいいかもしれません。

(委員)

この意見が、本当の暴力というのではなく、多分この子にとってはかなり強い感覚で、大きな問題かもしれません、おそらく悪いことをして叱られる感じであると思う。個人の意見ですが、保護者がこれを見たところで、そんなに気にされるような案件ではないのではないかでしょうか。これを虐待とかの部類に入れるものではないように思います。もし表現を変えられるのなら、特徴的な言葉を抜いてもいいのではないかと思いました。

(委員)

この封書の中にいくつか意見を言うための項目があって、一番最初に児童虐待というのが出てくるので、この児童虐待のところに反応して、これを書かれたように推測します。もう一つ、学童のところのむほう地帯という表現も、学童の関係者からすればいかがなものかと。こどもなので、表現がストレートになると思いますし、そこをそのまま載せるのはいいのかどうか、検討が必要であると思います。

(会長)

今、意見をいただいたような方向性かと思いますが、丁寧に原案を作っていましたが、少しそういう点も考慮していただいて、こどもたちの意見を一般的な形にまとめて公開するというようなことを考えていただいた方がいいかもしれません。

(委員)

資料1の10ページ、現状把握における課題の「資料のデザインは読みやすいように配慮したが、内容については読解が可能な子どもが限定的であったことから、十分な回答数が得られなかつたのではないか。」と書かれていますが、読解が可能な子どもが限定的という意味とか、そもそもどれくらいの数を想定して出されて、これだけ集まつたのかがわからない。また、これだとこどもの方がよくなかったから回答がないように見えるので、言い方を工夫された方がいいように思います。

(事務局)

配布数は、1万4千部程度です。こども向けのパブリックコメントについて、資料1の8ページのところにある☆を塗っていただく部分と、12ページの意見を寄せていただく部分が、一つの用紙の中に記載できるようになっています。この計画に対する意見をくださいという部分と、自分が意見を言っているか、自由に意見を言っているかということについて☆を塗るところは、どちらかというとアンケートのような部分になります。この基本的な目標のベースラインデータとしてとりたいと思っていたアンケート的な部分と、その次に繋がる意見を出す部分とが2つ混在した様式が、こどもたちの手元に届いているといったところがありまして、意見を言わないと返してはいけないのかなという思いを持ったこどももいたと聞いています。☆のところだけでも返してもらいたいと思っていましたが、そこをなかなか上手に伝えられていなかつたと反省しているところでもありますので、先ほどの10ページのところの表記も含めて、修正させていただきたいと思います。それから十分に回答が得ら

れなかった要因の1つとしては、そういう面もあるのではないかと考えています。

(委員)

168名の回答されたこどもたちは、もしこの結果を見られたら、とても丁寧に市の方から返事をされているということで、喜ばれるのではないかと思います。常に回答のところに、「こういうご意見をいただきありがとうございます」というのが書かれていますし、返事の内容に対してこども自身の受取方はどうかわかりませんが、心が通い合うような、そういう回答であったなど、感心させていただきました。

(会長)

こども・若者支援計画(案)について、それぞれの専門、関心のところを見ていただいて、何かお気づきのことがあれば。

(事務局)

支援計画の6ページにある「こども・若者の意見を聞く取組」について、例えば、「地域の活動からこども・若者の思いを聞く取組」で、聞いたところの具体名をあげています。特に「声をあげにくいこども・若者の意見を聞く取組」のところが具体的な明記になっておりますが、地域の事業などにイベントで出されることもあることもあり、表記の仕方について意見をいただけたらと思っています。

(委員)

そういう意味では、あまり具体名は出さない方がいいかもしれません。例えば、居場所づくりの場所でのアンケートとかいうふうに抽象的に言った方がいいかもしれない。

(事務局)

支援計画の6ページのところは、それぞれヒアリングをさせていただきました団体に対しては、掲載内容の確認を取っており、109ページからの巻末資料の中で、各種調査の結果概要について記載します。巻末資料2として、161ページのこども・若者の意見を聞く取組ということで、先ほど申しました活動の具体的なところが掲載されます。この辺りについても、ヒアリング等させていただいた団体には確認をしたところですが、今言っていたところでの配慮といった視点で改めて、こちらの巻末資料についても確認をさせていただければと思っております。

(会長)

あまり露骨に書かずに、ひきこもり支援を行う居場所事業の利用者という程度でどうかとは思います。

(会長)

35ページのアンケートからパーセントを出して、目標値に使われていますが。先ほどの

話ですと、全体を反映したようなパーセントではなかったということもある中で、目標値として設定する意味がどれだけあるのかというのを思いました。

(事務局)

まず令和11年度に向けた目標値については、資料1の中で11ページのところに、11年度の目標数値の根拠となるものを書かせていただいております。こども大綱に定められました「こどもまんなか社会」の実現に向けた国全体としての数値目標が設定をされていることから、そちらを参考に目標値として置いたところになります。現状、意見をいただいた人數が少ない中で、これを妥当と考えるのかどうかというところですが、この計画の一番上位の目標、こどもたちの基本的な権利がどういう状況なのかというところにあたります。やり方があるとすれば、例えば来年度、もう少し違う形での実態把握ができるような調査をやった上で、目標値を改めて設定をし、今回この目標値については使わないというやり方について考えたところではあります。ただ、目標値が全くないということになると、せっかく意見をしてくれたこどもたち、☆を塗ってくれたこどもたちの意見をどう見るのかもありますし、国全体としての数値目標が目指す方向性として示されているところがありますので、この数字で今回の計画はスタートを切らせていただけないかと考えたところあります。

(会長)

例えば、すこやかに育つは79%であったから、79%を下回る数値目標はありえないのでは、80%にされていると思います。そして、上は58%であったから70%でいいか、みたいな感じを受けます。すべての目標が基本的に大切であるとするのなら、すべて80にして然るべきですし、90でもいいわけで。数字の根拠があやふやなアンケートの数字をもとにしているような印象を強く受けます。目標を置くこと自身に問題はないです。すべて80に揃えるとか。

(会長)

こども版はすごくいいものを作られたと思いますが、どのような感じで公表されるのか教えていただきたいです。

(事務局)

今回こどもパブコメで意見を募集しました小学校5年、6年生と、中学校1年、2年生のこどもたちが、1学年上がりますので、小学校6年生と中学校1、2、3年生のこどもたちに、4月に印刷物が刷り上りましたら、学校を通じて配布する予定です。もし、予算的に冊数が増やせる場合は、できれば小学校5年生のこどもたちにも配りたいと考えています。

(委員)

こどもたちからもらったパブリックコメントを公表する資料が、資料2と3のことでしたが、これをどういう形で公表されるのか。ホームページでこのまま載るのか。あるいは、

学校に配るだけで、配りっぱなしになるのか。例えば、こども向けの冊子ひとつにしても、一番後ろに「こどもたちからの意見を一部紹介します」と書いてありますが、初めて見たひとにとっては、主語が何なのかというのが、わかりにくいです。他に、「中学生ではどこへ行けばいいのか、どこで聞けばいいのか、まったくわからないです。」と何を聞くということもわからないような形になっていますが、これはこういうものでいいのかどうかお聞きしたいです。

(事務局)

こどもたち向けのやさしい版について、16ページ17ページのところは、当計画を策定するにあたって、パブリックコメントに寄せられた意見を一部紹介することを予定していますので、今の意見を踏まえて、もう少し何の意見が紹介されているのかがわかるような表記に変更させていただきたいと思います。また、こどもたちからいただいた意見への返し方については、資料1の23ページのところでお伝えしたとおり、学校を通じて結果公表の案内チラシを配布したいと思っていますが、結果の公表そのものは市のホームページを予定しています。一般の方に対してとこどもたちに対して、それぞれ別のサイトに、資料2、資料3の形で回答を予定しているところです。

(会長)

こども版ですが、詳しく知りたいと思ったひとはこちらという形で二次元コードが載っています。最近のこどもはスマホを持っているので読み込むかもしれません、例えば同時に関連の相談窓口の電話番号とかを載せておくのはどうでしょうか。

(事務局)

午前中に行われた社会福祉審議会児童福祉専門分科会の中でも、こども向けのやさしい版については、相談したいと思ったときの相談先が入るような記載をお願いしたいという意見もいただいているので、なんとか相談先をどこかに入れて、相談したいと思ったらここへというように、電話番号などを入れた形で修正したいと考えています。

(委員)

パブリックコメントには、たまたまこういう意見がバラバラに出てきたものを羅列しているのかと思います。これを配って読むひとはどういうふうに読むのですか。自分が関心のあるところが出てきたら、参考にしてもらうのか、これを全部読んで、市の取り組みを理解してほしいということなのか。これを配る意味がもう一つわからないです。

(事務局)

資料2、資料3については、今回議論いただいている計画に対する市民の方からの意見になります。このいただいた意見に対して、市がどういう考えなのかをきちんと説明するために資料2、資料3をホームページ上にて公開していくということです。ですので、多くの市民の方がご覧になるのかどうかはわかりません。意見をくださった方が、自分の意

見に対してどのように市が考えているのかをご覧になられることもあると思いますが、それ以外のところでも、こどもたちからどのような意見が出てきているのか、それに対して市はどう考えているのかというところについては、見ていただけるところはあるように考えています。

(委員)

意見を出した本人に向けてはもちろんいいのですが、公表となると、これを全部配るのでしょうか。

(事務局)

資料2、資料3はホームページに載せるだけです。こどもたちに配るのは、資料5になります。

(委員)

インターネットで関心のあるところを見なさいということですか。

(事務局)

そうです。自分の出した意見にどのような答えを書いているのかという。

(委員)

わかりました。

(委員)

大津市の考えのところに、「大人」と全般的に出ていますが、学校の先生と捉えていいのですか。地域の大人なのか、親なのかというところが、質問された方からすると、答えの「大人」が誰なのか疑問に思うと思います。言葉を付け加えるか、何かでまた教えてもらえたらしいように思います。

(事務局)

午前中の別の会議の中でも、意見で「先生が」と書いているにもかかわらず、大津市の回答では「大人が」というような返し方をしているので、こどもの意見に対して、まっすぐに答えてないのではないかという意見をいただいている。そのあたりの表現ぶりについては、改めて教育委員会とも相談しながら、見直しを考えていきたいと思っております。

(委員)

こどもの意見で、例えば、「登下校中でパトロールしていることが多くて安心して登校できる」であるとか、「スクールガードの方に感謝します」みたいなコメントが多くて、ありがたいなと思っています。今日もここに来るときにちょうど下校時間で街頭にボンランティアの方が寒い風の中出ていただいている、頭の下がる思いです。そういう活動をこども

たちもしっかりと見て、こういう意見を持っていただいているのがありがたいですし、こういう声を聞いて、ボランティアの方も励みになると思います。これが完成したら、ぜひとも紹介させてもらっても大丈夫でしょうか。

(事務局)

こどもたちから、スクールガードあるいはオレンジベストといった方たちに対して、たくさん意見をいただいて、本当に安心だという声をいただきましたので、私たちの方からも、そういう地域の活動をしてくださっている方々に対して、意見をこんなにいただきましたということについて、またお伝えをしていきたいと考えています。

閉会